

## 平成24年度学長裁量経費研究推進支援プロジェクト研究成果報告書

### 1. 研究の概要

プロジェクト名	色材を用いた絵画指導教材の導入方法についての実践研究		
プロジェクト期間	平成24年7月～平成25年3月		
申請代表者 (所属講座等)	加藤隆之 (美術教育講座)	共同研究者 (所属講座等)	
取組方法・取組実績の概要	<p>昨年度の学長裁量経費プロジェクト（「教員養成カリキュラムにおける色材を用いた絵画指導教材の開発」（申請者：加藤 隆之））で制作した「色材を用いた絵画指導教材ボックス」（以後、「色材ボックス」）を活用し、指導プログラムとしてまとめることを本研究の目的としている。特に教員養成カリキュラムにおける授業での導入方法について、申請者が担当する授業で実践し、その結果の検証をおこなう。</p> <p>絵画指導における教員としての基礎的知識の習得、そして感性を高めるための体感型学習を主眼において実践に取り組む。当初の実践予定は学部授業が中心であったが、取り組んだ結果として大学院の授業が中心となり一部を学部の授業にておこなった。</p>		
研究成果の概要	<p>「色材ボックス」を活用した大学院の授業では、油絵具色見本表の作成から始まり、顔料の自製とそれに続く描画材の作成によって、素材に触れる学習からの理解の促進を図った。作成した描画材は、パステル、小麦粉絵具、水彩絵具、テンペラ絵具、クレヨン、油絵具の6種類である。学部の授業では、油絵具をチューブから出した直接の色で説明する、絵具の素となる顔料の色を経験する、溶き油の違いを視覚の他に嗅覚や触覚で体感する、といった内容で「色材ボックス」を活用した。この活用により視覚的な学習として描画材に対する理解を深めることができた。さらに、大学院の授業内容を学部へ取り入れる試みとして、油絵具作りを取り入れた。これは、顔料による生の色に感動を覚え、感性を高める体感型学習として効果的であった。</p> <p>今後の課題として、制作による技術力と指導力の習得に対して、「色彩ボックス」を活用した知識と経験を身につける体感型の学習をどの程度取り入れるかについて、継続的な実践による効果の検証の必要性が明らかとなった。</p>		
外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法等について〔 <input type="checkbox"/> （該当事項）にチェックをお願いします。〕			
外部資金獲得申請（予定）	<input checked="" type="checkbox"/> 科学研究費補助金 <input type="checkbox"/> 受託研究費 <input type="checkbox"/> その他 ( )	研究成果の公表方法（予定）	<input checked="" type="checkbox"/> 学会（国内）：大学美術教育学会で発表 <input type="checkbox"/> 新聞・図書・雑誌論文等： <input type="checkbox"/> その他：